

「いい川・いい川づくり」の情報発信の取り組みを表彰

～石巻かわまちづくりの先進的な事例の情報発信に Good Job！～

北上川下流河川事務所では、当事務所に関わる優良な取組や活動を Good Job 賞として表彰しています。この表彰によって優良な取組や活動がさらに広がることを期待しています。

今回は、「第15回いい川・いい川づくりワークショップ in 東北」において、石巻かわまちづくりの先進事例について情報発信した取り組みを表彰します。

<表彰式>

日時：令和5年11月1日(水) 9時00分から

場所：北上川下流河川事務所 大会議室

<表彰内容>

「いい川・いい川づくりの活動及び情報発信」

株式会社 街づくりまんぼう

北上川下流河川事務所 工務課 葛西曜陸

いい川・いい川づくりワークショップ[※]において、石巻かわまちづくりの先進的な事例を情報発信し、全国の川づくりに携わる人たちとの交流を深め、これからの“いい川づくり”のビジョン、イメージについて、幅広い共有がなされ、河川を整備していくうえで大変意義深いものとなった。

<取材について>

取材受付は8時50分から行います。(大会議室にお越し下さい)

※)「いい川・いい川づくりワークショップ」とは

「“いい川”とは何だろう・・・？」を問いかけ、自由で柔らかにその答えを探っていくための、<公開選考会>という方式で実施するワークショップで、7月7日の「川の日」を記念した <市民実行委員会>主催の大会として、1998年にスタートして以来、毎回、全国各地から、多くの「これぞ、“いい川”！ “いい川づくり”！」という応募があり、地域の水辺を愛し、育み、見守る、毎回500人規模が一堂に会する催しとなっています。【参考】<http://mizukan.or.jp/>

<発表記者会>石巻記者クラブ、古川記者クラブ、東北建設専門紙記者会

問い合わせ先

国土交通省 東北地方整備局 北上川下流河川事務所

住所：宮城県石巻市蛇田字新下沼80

電話：0225-95-0194(代表)

副所長(事業)

小嶋 光博 (内線204)

工務課長

國部 啓武 (内線311)





行きたびカワる、とっておきの風景

復興事業によって新たに生まれた旧北上川沿いの景色は、それまでの石巻の湊町としてのイメージから連想される「賑わい」や「暮らし」とは異なる、地形の美しさを最大限に生かした「美しく、穏やかな風景」となりました。この新しくできた川の風景を、市民にとって身近な、でも特別な場所へと育てていくために、ここでしか体験できない「映画上映会」が開催されています。この他にも、かわまちオープンパークでは、市民が自身の手で川を活かしていく取り組みが重ねられています。

石ノ森美術館をスクリーンにした野外上映会「かわべでシアター」

かわまちオープンパークの概要



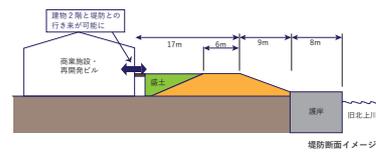
北上川の河口部にある石巻市中心市街地は、江戸時代より舟運のまち（湊町）として栄えた歴史から、堤防が整備されていないエリアでした。東日本大震災時に旧北上川を遡上した津波は市街地へと溢れ、多くの命や財産を奪うなど大きな被害をもたらしました。

震災前より「川を活かしたまちづくり」を掲げていた石巻市や川を活かしたさまざまな取り組みを行っていた地域住民は、震災直後より津波を防ぐだけの堤防ではなく、街の魅力を高め市民の誇りとなるような堤防のあり方について議論を重ねてきました。半年に及ぶ議論の末、旧北上川河口部右岸には高さ4.5m(TP)の河川堤防が整理されること、隣接する建物と2階部分で接続することができ、広場を伴った空間として整備することが決まりました。

新たな堤防と一体となった広場は2020年に完成しました。この堤防と広場を市民がより身近に感じられるようにと、まちづくり会社やまちづくりに携わる人たちによって『かわまちオープンパーク』という名前がつけられました。川とまちが繋がり、誰もが思い思いに過ごし楽しむことができる場所になって欲しいという願いが込められています。また、川や堤防を介して訪れる人たちの“輪”が広がっていくことをイメージしてロゴも作られました。



かわまちオープンパーク全景



かわまちオープンパークでの取り組み



川を舞台にしたステージでのライブ



NPO団体によるカヌー体験会



釣った魚を天ぷらにして食べるイベント



地元大学生による竹灯籠を使ったライトアップ

『かわまちオープンパーク』では、かわべでシアターの他にも一年を通して市民によって新たな使い方がされています。堤防上は市内で活動するアマチュアバンドのライブステージとして、旧北上川の水辺はNPO団体によるカヌーの体験会場として利用されています。秋には、「昔子どもたちが川で釣った魚を近所の飲食店へ持ち込み天ぷらにして食べていた」というエピソードから、釣った魚を天ぷらにして食べるイベントが開催されています。3月には、市内の大学生らが竹灯籠を制作し、堤防上に並べて点灯する企画が催されました。

運営体制



『かわまちオープンパーク』は、都市・地域再生等利用区域の指定を目指して2020年よりキッチンカー等の出店やイベントを行い、活用状況を検証する社会実験が行われています。石巻市が河川管理者（北上川下流河川事務所）より占有許可を受け、運営団体として街づくりまんぼうが石巻市から管理を請け負っています。街づくりまんぼうは、イベントなどを企画しながら、市民団体によるイベント利用や事業者による出店を受け付け、実施にあたってサポートを行っています。

川を起点としたエリアの賑わい創出へ



「かわまちエリア未来ビジョン～川沿いエリア編～」

石巻市では、『かわまちオープンパーク』や隣接する商業施設「いしのまき元氣いちば」によって生まれた賑わいを周辺の商店街を含めたエリア全体に及ぶよう、新たなビジョンづくりを街づくりまんぼうなど関係者と進めています。また、ビジョンとともに持続的なまちづくりに向けたエリアマネジメント体制の構築が目標されています。

ふりがな 川や水辺の名称	旧北上川（北上川水系）	活動や事業の名称または応募にあたってのテーマ
所在地	宮城県石巻市	石巻の夏の夜の思い出に、かわべでシアター
応募者名（ふりがな） 所属団体名	（かぶしきがいしゃまちづくりまんぼう） 株式会社街づくりまんぼう	（記入不要）エントリー No.

石巻かわまちづくり ～川とともに生きる新しい石巻～



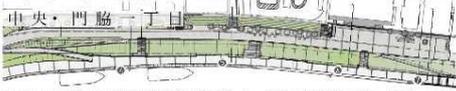
かわみなと石巻の選択 平野勝也(東北大学)



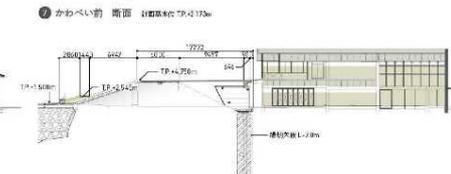
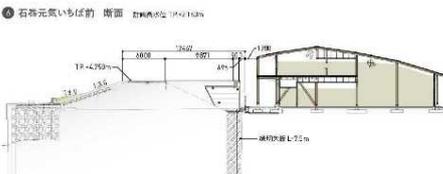
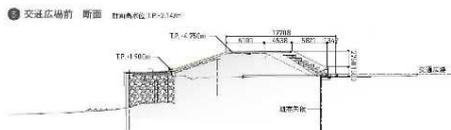
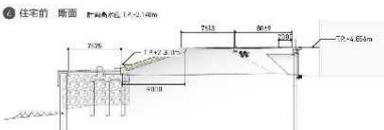
風景の布石としての堤防デザイン 一松大志(早稲田大学)



中央地区



旧北上川と平行に本町から続く中町(仲町)と、アイトピア通り(大町、轟町、寿町(裏町)の二木の通りとそれと交わる広小路・橋通り、それに続く旗町・立町などを中心に多くの商店が軒を連ね、古くから行政と商業の中心として栄えていました。地区の再開発を踏まえて、賑わいの新たな拠点としてのまちづくりと一体になった良好な水辺空間の創出を行っています。堤防先端空間においては、川沿いに整備された建築物との一体的な空間整備を行うことで、まちと天端プロムナードを緩やかに結びつけました。



中央交通広場前 新しいかわみなの風景をつくる



元気いちば前 建築と堤防の一体的整備



令和4年度かわまち大賞受賞

かわまち大賞
KAWAMACHI AWARD



ふりがな 川や水辺の名称	きゅうきたかみがわ 旧北上川(北上川水系)	活動や事業の名称または応募に当たってのテーマ 石巻かわまちづくり
所在地	宮城県石巻市	(記入不要)エントリーNo.
応募者名(ふりがな) 所属団体名	葛西 曜陸(かさい ようへい) 北上川下流河川事務所	